



血液免疫病学ニュースレター

Vol. 38 | 2023年5月

【発行元】 東北大学病院 血液内科・リウマチ膠原病内科

Address: 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

Tel: 022-717-7165 / Fax: 022-717-7497

Homepage: <http://www.rh.med.tohoku.ac.jp/>

巻頭言

今年は春の到来が早く、4月早々に桜が満開となりました。キャンパスには新入生、新社会人があふれ、いつもながらの華やいだ季節となっています。医局も新しいメンバーを迎え、活気に満ちています。本号では恒例の新メンバーの自己紹介を載せていますので、一緒に歓迎いただければと思います。

さて、私事ですがこの4月より、東北大学病院長を務めることになりました。前号でご報告申し上げた通り、宮城県病院機構理事長も兼務しておりますので、生活が一変した感じです。血液内科での時間がほとんどとれないため、血液内科科長は横山准教授にお願いすることになりました。さらに、3年後の日本内科学会の大会長も務めることになったため、医局スタッフにはますます負担をかけることになりそうです。ただ、横山准教授以下、いずれも頼れるスタッフですので、滞りなく診療・研究・教育を進めてくれると確信しています。

私がこれらの役職を務めるステージになったということは、ある意味、次世代にそろそろバトンを渡す時期が来たことを示しています。これから、それぞれのスタッフ

【目次】

巻頭言	… 1
新入局員挨拶	… 2～3
学会報告	… 3～5
イベント報告	… 6
人事異動	… 7
業績紹介	… 8

がベストのキャリアを積んでいけるよう尽力してまいりたいと思います。

コロナ禍もやっと明けつつあり、今年は先生方と以前のように様々な行事で一緒にできるようになると思います。直接お目にかかれることを楽しみにしています。

今年度もよろしく願い申し上げます。

(張替 秀郎)

久保 龍大 先生

〔血液内科〕

お初お見えにかかります、血液内科専攻医2年目の久保龍大(くぼりゅうた)です。秋田大学を卒業後、縁もゆかりもない宮城県に来て東北大学病院で2年間初期研修を行いました。ぎりぎりまで診療科の選択を悩みましたが、最後は何かと縁のある血液内科専攻に決めました。仙台市立病院血液内科で1年間後期研修後、この春からお世話になっております。市立病院とまた違う患者層、治療法で日々苦戦していますが、早く戦力になれるよう精進していきます。

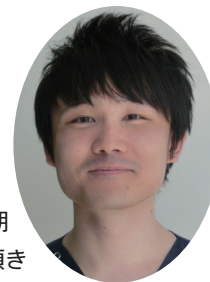
未熟な専攻医1年目を指導していただいた、山本譲司先生、突田真紀子先生にはとても感謝しています。



安部 宇明 先生

〔血液内科〕

本年度より血液内科学分野に入局いたしました、安部宇明(あべひろあき)と申します。秋田県能代市出身で、2020年度に東北大学を卒業後、初期研修は山形県立中央病院で行わせて頂きました。私は学生の時分より漠然と化学療法に関心を持っておりましたが、化学療法を扱う多くの科の中で、血液内科は遺伝子による疾患の層別化や分子標的薬の導入といった面において、特に発展している分野であると考えております。その点にある種のロマンを感じたため、専門分野として血液内科に進む道を選択いたしました。日々諸先生方と共に働かせて頂くにつけ、自らの力不足を痛感しておりますが、1つ1つの症例を大切に精進していきたいと考えております。ご指導・ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



大友 莉那 先生

〔リウマチ膠原病内科〕

本年度より、リウマチ膠原病内科にて週1日研修させていただいております、大友莉那と申します。出身は宮城県で、自治医科大学を卒業後、仙台医療センターで初期研修を行い、栗原中央病院、仙台医療センターを経て、現在は栗原中央病院で勤務しています。日々の診療の中でリウマチ・膠原病疾患の奥深さを実感し、当科で勉強したいと思い、4月から研修させていただくことになりました。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

三浦 茉衣子 さん

〔臨床研究コーディネーター〕

4月より臨床研究コーディネーターとして入局いたしました、三浦茉衣子と申します。大学病院臨床研究推進センターでCRCとして7年間勤務しておりました。CRCをしていたころは血液内科の治験を担当することが多く、血液疾患にとっても興味があったので、こうして働かせていただけることをとても嬉しく思っております。前職で学んだことを活かしお仕事できるよう、精一杯業務に取り組んでまいりますのでご指導よろしくお願い致します。

三谷 理絵 さん

〔臨床心理士〕

4月より心理職として入局いたしました公認心理師の三谷理絵と申します。教育領域での日常における心理臨床を長く経験してきました。東日本大震災では非常時の学校緊急支援にも携わりました。日常と非日常の臨床経験を医療領域で活かしていければと考えております。患者様とそのご家族おひとりおひとりの気持ちを大切に聴きながら一緒にどうしたらよいかを考えます。世間話から深い話までが私の守備範囲です。日々精進して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

久保田 哲子 さん

〔事務補佐員〕

4月よりお世話になっております、久保田哲子と申します。経理関係を担当しております。

大学病院に勤務してから16年目の春を迎えました。その間ずっと、東14階の血液内科/リウマチ膠原病内科病棟で病棟クラーク、メディカルクラーク業務に携わり、先生方には大変お世話になりました。このたび、医局での職をいただき、日々感謝しながら、皆様にご迷惑をおかけしないよう務める所存ですので、引き続きのご指導をお願い致します。

プライベートでは休日のウォーキング、読書、手仕事で気持ちをリセット、ここ数年は夏山トレッキング&下山後の温泉を愉しんでおります。

どうぞよろしくお願い致します。



新入局員・新メンバー挨拶（続き）

佐々木 智子 さん

〔事務補佐員〕

4月より事務補佐員として入局いたしました佐々木智子と申します。趣味は茶道のお稽古（お菓子付き）と今年7歳になった猫3兄弟にまみれることです。以前は、検査部、感染制御検査診断学、産婦人科、環境遺伝医学総合研究センター（エコチル）でお世話になっておりました。長く大学で勤務しておりましたが初心を大切に日々の業務に取り組みたいと考えております。

ご迷惑おかけすることもたくさんあるかと思いますがご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。

富岡 和美 さん

〔事務補佐員〕

4月10日より人事業務の事務補佐員として入局させていただきました、富岡和美です。前職は民間企業で事務職をしていましたが、病院業務は初めてなので色々分からない事だらけでご迷惑をお掛けいたしますがご指導のほどよろしくお願い致します。ペット（犬）を飼っているので、ペットのお話など声を掛けていただくと嬉しいです。

学会報告

第67回日本リウマチ学会総会

2023年4月24日から26日に福岡市の福岡国際会議場・福岡サンパレス・福岡国際センターで開催された第67回日本リウマチ学会総会にて、当科からは口演3題とポスター1題の演題発表を行いました。

ワークショップ

○ 白井 剛志 先生

W12-2 抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の中長期的予後の検討

○ 片倉 世雄 先生（現所属 岩手県立中央病院）

W65-1 抗TIF-1 γ 抗体陽性皮膚筋炎の臨床的特徴と再燃率の検討

International concurrent workshop

○ 矢坂 健 先生

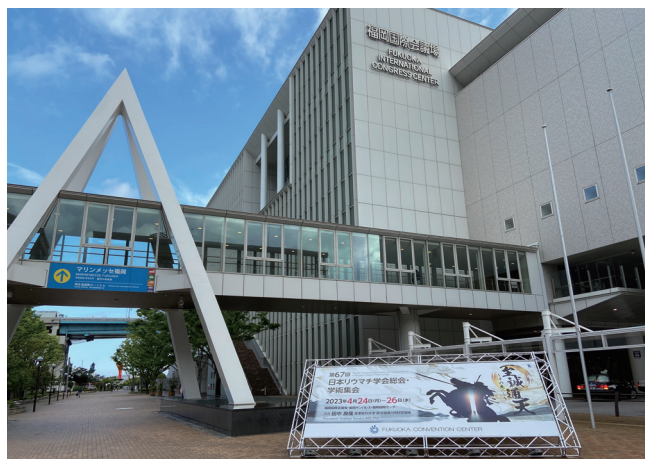
ICW34-3 Phospholipase D 4 positive B cells are toll-like receptor-stimulated, potentially autoreactive, and expanded ones in systemic lupus erythematosus

ポスタービューイング

○ 森 健太郎 先生

P2-127 馬蹄腎に発症し、尿所見と腎病理像に乖離を認めたANCA関連腎炎の一例

昨年はハイブリッド開催でしたが、今年はオンサイトでの開催となりました。昨年よりも参加者がだいぶ多くなりましたが、コロナ禍以前に比べると座席の間隔にはゆとりがあり、ランチョンなどの待機列も短い印象がありました。総会での発表は、日々の活動を振り返り、次に繋げるための良い機会になりますので、多くの先生に来年に向けてテーマを温めていただければと思います。（白井 剛志）



第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会

2023年2月10日から12日までの期間に、第45回日本造血・免疫細胞療法学会総会が名古屋で開催されました。当科からは口演、ポスター発表併せて7演題の発表の機会をいただきました。コロナ禍がいまだに収束しないことから、依然としてハイブリッド形式の開催ではありましたが、今までに増して多くの先生方が学会会場に直接足を運ばれている印象でした。現地参加の先生方の増加に伴い、face to faceで質問が交わされる機会が増えたことから、演者の先生方は久しぶりの緊張感を感じられていたのではないかと思います。web参加ではどうしても口演に集中できず、他の作業をしながらの聴講になってしまいがちかと思われま。私自身も久しぶりの現地参加でしたが、発表会場に直接身を置くこ

とで、集中して口演を聴講できたような気がします。発表内容としては、個人的な興味によるバイアスも多分にあるかと思われまますが、CAR-T療法関連やPTCy-haplo関連の内容が盛り上がっていたように感じられました。web開催の簡便さに慣れてしまうと現地に赴くのは億劫になりがちですが、会場の雰囲気を感じながら口演を聴講することは、やはりweb参加とは違った醍醐味があると思います。COVID-19が5類感染症に格下げされ、人々の往来もより活発化することが予想されます。皆さんも是非会場に直接足を運び、アカデミックな雰囲気を是非肌で感じとってきていただきたいと思われま。 (小野寺 晃一)

【発表演題】

- [OS30-1] 大西 康 先生「再生不良性貧血に対する臍帯血移植と PTCY を用いたハプロ移植の比較」
- [P12-5] 小野寺 晃一 先生「ブリナツモマブにより長期寛解を得た同種造血幹細胞移植後再発急性リンパ性白血病の2症例」
- [P23-4] 橋本 和貴 先生「当院における FLU-BU-MEL あるいは FLU-MEL-TBI を強度減弱前処置に用いた臍帯血移植の後方視的比較」
- [WS4-4] 横山 寿行 先生「大規模レジストリデータ解析から示唆される同種造血幹細胞移植における NK 細胞の役割」
- [EL12] 大西 康 先生「CAR-T 細胞療法における地域医療連携のあり方」
- [AS13-1] 大西 康 先生「造血幹細胞移植に潜む感染症のピットフォール」アフタヌーンセミナー
- [AS11] 福原 規子 先生「再発濾胞性リンパ腫の治療戦略」アフタヌーンセミナー



医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2023 東京

今年も4月の内科学会総会にあわせて、恒例の「内科学会ことはじめ」において、血液内科からは医学部6年生1名が発表を行いました。

○血液⑤ 演題番号 228 佐々木 勇杜 君（指導：市川）

「多発髄外腫瘍を伴い発症した IgH::MYC 陽性多発性骨髄腫の一例」

今年は3年ぶりに現地開催の設定となり、東京国際フォーラムにおいてポスター発表セッションが行われました。これまでのように大きなポスター用紙を壁に貼り付けての発表ではなく、仕切りで区切られたセッションごとにモニターが用意され、モニターにスライドを映して発表するデジタルポスター形式でした。一般的な地方会の演題発表に近い形式での発表となりますし、大きなポスターを持参する必要がなく、聴衆も見やすいなどのメリットがあるため、今後の潮流になるかもしれません。

文献考察のまとめ方が難しい症例だったと思いますが、よく勉強し形に出来たと思います。多発性骨髄腫の専門家の先生も聴衆にいらっしやる中、緊張しながらも堂々と発表し、質問にも頑張って応答していました。その結果、優秀演題賞を受賞することが出来ました。今回の経験を糧にして、今後臨床現場に出てからも、学会発表や症例報告を積極的に行って、研鑽を積んでもらえればと思います。

（市川 聡）

リウマチ膠原病内科からは医学部6年生の西尾実華さんが発表を行いました。

○アレルギー・膠原病② 演題番号 262

「皮膚の易刺激反応と肺動脈炎を合併した再発性多発軟骨炎に TNF 阻害薬を使用した一例」（指導医：白井先生）

当日は、はきはきとした素晴らしい発表で、質問にも堂々と答えていました。今年ば会場参加型を中心とした開催」とのことで、現地でのスライド発表となり、学会本来の活気も感じる事ができたと思います。今年も医学生・研修医の会とは思えないほど高いレベルの演題や発表でした。ぜひ今回の経験を今後の学会発表へ活かしてもらえたらと思います。

（佐藤 紘子）



石澤賢一教授 退職祝賀会

3月4日にウェスティンホテル仙台にて、この春山形大学医学部第三内科教授をご退職なされた石澤賢一先生の退官記念祝賀会が開催されました。ようやくコロナ禍から解放されつつある状況の中、対面での開催が実現し、おいしいお酒と食事とともに会話に花が咲きました。和やかな雰囲気の中、諸先生方から石澤先生との様々なエピソードを交えて興味深いお話を沢山頂戴し、石澤先生のリンパ腫研究における多大な功績のみならず、診療（あるいは課外活動）を通じて多くの人々に影響を与えてこられた、いわば"人的功績"の大きさを、あらためて窺い知ることが出来ました。石澤先生は4月以降、仙台にいらっしゃるとのことですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどお願いできればと思っております。



人事異動

この春の当科及び関連病院の人事異動についてお知らせ致します。

【内部】

張替 秀郎 先生	東北大学病院 病院長, 東北大学 副学長, 宮城県立病院機構 理事長
横山 寿行 先生	血液内科 准教授 → 同 特命教授・診療科長
加藤 浩貴 先生	血液内科 助教 → 同 講師, 検査部 副部長
川尻 昭寿 先生	大学院生 → 助教 (造血器病理学共同研究部門)

【転入・採用】

小野 浩弥 先生	仙台市立病院 血液内科 → 輸血・細胞治療部 医員
諸田 直哉 先生	仙台医療センター 血液内科 → 血液内科 医員 (専攻医3年目)
成田 衛 先生	大崎市民病院 リウマチ科 → リウマチ膠原病内科 医員 (専攻医3年目)
久保 龍大 先生	仙台市立病院 血液内科 → 血液内科 医員 (専攻医2年目)
安部 宇明 先生	山形県立中央病院 初期研修医 → 血液内科 医員 (専攻医1年目)
大友 莉那 先生	リウマチ膠原病内科 研修登録医
三谷 理絵 さん	臨床心理士
三浦 茉衣子 さん	臨床研究コーディネーター
佐々木 智子 さん	事務補佐員
久保田 哲子 さん	事務補佐員
富岡 和美 さん	事務補佐員

【転出】

藤原 亨 先生	血液内科 講師, 検査部 副部長 → 岩手医科大学医学部 臨床検査医学講座 准教授
高橋 秀典 先生	リウマチ膠原病内科 医員 → 大崎市民病院 リウマチ科
小松 弘香 先生	血液内科 医員 → 宮城県立がんセンター 血液内科
渡邊 樹也 先生	血液内科 医員 → 大崎市民病院 血液内科
竹中 健太 先生	血液内科 医員 → 仙台市立病院 血液内科
鳴海 善洋 先生	血液内科 医員 → 仙台医療センター 血液内科
片倉 世雄 先生	リウマチ膠原病内科 医員 → 岩手県立中央病院 リウマチ科

【外部】

石澤 賢一 先生	山形大学医学部 第三内科 教授 → 東北福祉大学 健康科学部 保健看護学科 教授
奥田 光崇 先生	仙台市立病院 病院長 → 仙台市立病院 事業管理者
佐々木 治 先生	宮城県立がんセンター 副病院長 → 宮城県立がんセンター 病院長
大地 哲朗 先生	大崎市民病院 血液内科 → 国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科
那須 健太郎 先生	大崎市民病院 血液内科 → 仙台医療センター 血液内科
齋藤 慧 先生	仙台医療センター 血液内科 → 群馬大学 血液内科
中川 諒 先生	大学院生 → 仙台市立病院 血液内科
渡邊 正太郎 先生	山形大学医学部 第三内科 → 大崎市民病院 血液内科
井樋 創 先生	リウマチ膠原病内科 地域医療支援助教 → 東北医科薬科大学病院 リウマチ科
木葉 大地 先生	大崎市民病院 血液内科 → 坂総合病院 内科
永井 泰地 先生	大崎市民病院 リウマチ科 → 東北労災病院 リウマチ科
丹野 唯人 先生	東北労災病院 リウマチ科 → 大崎市民病院 リウマチ科



業績紹介

2022年2月～2022年4月の当科の業績を紹介致します。

1. Ichimura H, Ichikawa S, Ono K, Inokura K, Hoshi Y, Shirai T, Fukuhara N, Yokoyama H, Fujii H, Harigae H. Severe bone marrow aplasia following macrophage activation syndrome in systemic lupus erythematosus. *Tohoku J Exp Med.* (in press)
2. Mutoh T, Furudate S, Narita M, Nagai T, Taniuchi S, Kudo M, Fujii H. Multiple punched-out ulcerations on the abdomen in anti-melanoma differentiation-associated gene 5 dermatomyositis. *Arthritis Rheumatol.* 2023 Apr 25. doi: 10.1002/art.42521. PMID: 37096454
3. Onishi Y, Furukawa E, Kamata M, Fukatsu M, Kameoka Y, Hatta S, Hamada H, Oyake T, Kai T, Sukegawa M, Nakajima S, Yanagiya R, Yamaguchi K, Takahashi T, Harazaki Y, Izumi T, Murai K, Ito S, Ikezoe T, Ishizawa K, Takahashi N, Harigae H. Outcomes of adult patients with early T-cell precursor (ETP) acute lymphoblastic leukemia/lymphoma (ALL) and non-ETP T-ALL. *Int J Hematol.* 2023 May;117(5):738-747. doi: 10.1007/s12185-023-03546-6. PMID: 36757523
4. Shirai T, Machiyama T, Sato H, Ishii T, Fujii H. Intensive induction therapy combining tofacitinib, rituximab and plasma exchange in severe anti-melanoma differentiation-associated protein-5 antibody-positive dermatomyositis. *Clin Exp Rheumatol.* 2023 Mar;41(2):291-300. doi: 10.55563/clinexprheumatol/8kulbf. PMID: 36700661
5. Shirai T, Watanabe S, Shinozaki NO, Baba K, Yamasaki H, Ishii T, Fujii H. Common dysbiosis features between patients of different social environments in Takayasu arteritis: Comments on the article by Fan et al. *Arthritis Rheumatol.* 2023 Jan 9. doi: 10.1002/art.42438. Online ahead of print. PMID: 36622341
6. Abe H, Saito M, Uno K, Koike T, Ichikawa S, Saito M, Kanno T, Hatta W, Asano N, Masamune A. A case of refractory bleeding from duodenal angioectasia with acquired hemophilia A. *Clin J Gastroenterol.* 2023 Apr 6. doi: 10.1007/s12328-023-01790-1. PMID: 37022595
7. Goto H, Kitawaki T, Fujii N, Kato K, Onishi Y, Fukuhara N, Yamauchi T, Toratani K, Kobayashi H, Yoshida S, Shimo M, Onodera K, Senjo H, Onozawa M, Hirata K, Yokota I, Teshima T. Safety and efficacy of tisagenlecleucel in patients with relapsed or refractory B-cell lymphoma: the first real-world evidence in Japan. *Int J Clin Oncol.* 2023 Apr 18. doi: 10.1007/s10147-023-02334-w. PMID: 37071252
8. Miyata M, Hirabayashi Y, Munakata Y, Urata Y, Saito K, Okuno H, Yoshida M, Kodaera T, Watanabe R, Miyamoto S, Ishii T, Nakazawa S, Takemori H, Ando T, Kanno T, Komagamine M, Kato I, Takahashi Y, Komatsuda A, Endo K, Murai C, Takakubo Y, Miura T, Sato Y, Ichikawa K, Konta T, Chiba N, Muryoi T, Kobayashi H, Fujii H, Sekiguchi Y, Hatakeyama A, Ogura K, Sakuraba H, Asano T, Kanazawa H, Suzuki E, Takasaki S, Asakura K, Suzuki Y, Takagi M, Nakayama T, Watanabe H, Miura K, Mori Y; Michinoku Tocilizumab Study Group. Feasibility of methotrexate discontinuation following tocilizumab and methotrexate combination therapy in patients with long-standing and advanced rheumatoid arthritis: a 3-year observational cohort study. *Fukushima J Med Sci.* 2023 Apr 5;69(1):11-20. doi: 10.5387/fms.2022-06. PMID: 36990790
9. Miyazaki K, Sakai R, Iwaki N, Yamamoto G, Murayama K, Nishikori M, Sunami K, Yoshida I, Yano H, Takahashi N, Okamoto A, Munemoto S, Sawazaki A, Suehiro Y, Fukuhara N, Wake A, Arai A, Masaki Y, Toyama K, Yokoyama A, Tsunemine H, Hasegawa Y, Matsumoto K, Yamada T, Nishimura Y, Tamaru S, Asano N, Miyawaki K, Izutsu K, Kinoshita T, Suzuki R, Ohshima K, Kato K, Katayama N, Yamaguchi M. Five-year follow-up of a phase II study of DA-EPOCH-R with high-dose MTX in CD5-positive DLBCL. *Cancer Sci.* 2023 Mar 16. doi: 10.1111/cas.15784. PMID: 36929591
10. Munakata W, Ando K, Yokoyama M, Fukuhara N, Yamamoto K, Fukuhara S, Ohmachi K, Mishima Y, Ichikawa S, Ogiya D, Aoi A, Hatsumichi M, Tobinai K. Long-term safety profile of tirabrutinib: final results of a Japanese Phase I study in patients with relapsed or refractory B-cell malignancies. *Int J Hematol.* 2023 Apr;117(4):553-562. doi: 10.1007/s12185-022-03514-6. PMID: 36576659
11. Nomura J, Seki M, Abe S, Kobayashi T, Okitsu Y, Fukuhara N, Takahashi S, Harigae H, Kameoka J. Progression of hemolysis in a patient with hereditary spherocytosis after the second dose of COVID-19 mRNA vaccine. *Hum Vaccin Immunother.* 2023 Dec 31;19(1):2165381. doi: 10.1080/21645515.2023.2165381. PMID: 36625832
12. Souri M, Osaki T, Shimura Y, Ichikawa S, Mori M, Ogawa Y, Ichinose A. Identification of non-neutralizing anti-factor X autoantibodies in three Japanese cases of autoimmune acquired factor X deficiency. *Haemophilia.* 2023 Mar;29(2):555-563. doi: 10.1111/hae.14711. PMID: 36478471

